

次世代の健康づくり副読本 子どもの生活習慣学習教材(小学校4～6年生)

「やーにんじゅがうぐとう ちばりよ～ ちゃ～がんじゅ～」の活用実態調査結果

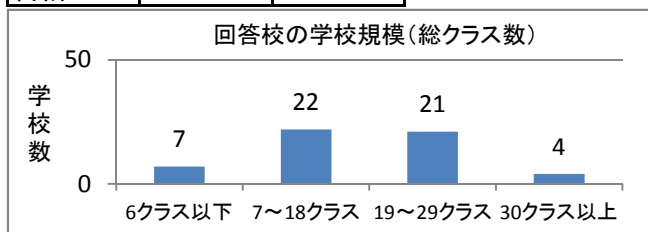
■回収率

	回収数	対象数	回収率(%)
浦添市	10	11	91
豊見城市	7	8	88
糸満市	8	10	80
南城市	9	9	100
西原町	3	4	75
八重瀬町	4	4	100
与那原町	1	2	50
南風原町	4	4	100
久米島町	4	6	67
離島村	7	9	78
合計	57	67	85

なお、締め切り日に回収率が60%に満たなかったため、回答依頼を電話にて行った。

■回答者の職名(一部複数記入)

職名	学校数	(%)
教頭	35	60
教務主任	3	5
教諭	15	26
養護教諭	5	9
合計	58	100



「学校一覧」(沖縄県教育委員会ホームページ)から作成

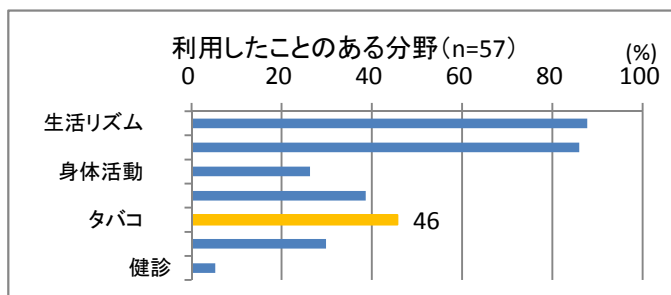
Q1 子どもの生活習慣学習教材(小学校4～6年生)「やーにんじゅがうぐとう ちばりよ～ ちゃ～がんじゅ～」(別添①)(以下「教材」)を知っていますか。

	学校数	(%)
はい	55	96
いいえ	1	2
無回答	1	2
合計	57	100

・回答57校中55校が副読本を知っていた。

Q2 教材では、次のどの分野を利用したことがありますか(複数選択)(今年度、予定を含む)

	学校数	(%)
生活リズム	50	88
食生活	49	86
身体活動	15	26
睡眠	22	39
タバコ	26	46
アルコール	17	30
健診	3	5
回収数	57	100



・「生活リズム」、「食生活」の分野での活用が80%を越えていた。

・タバコ分野を活用しているのは26校(46%)であった。

Q3～Q5はタバコ分野を活用したことのあった学校からの回答を集計した。

Q3 教材を利用して授業を行った学年と回数を教えてください。(複数回答可)(今年度、予定を含む)

	0回	1回	2回	3回	4回	5回以上
小学4年生	17	2	1	5	1	0
小学5年生	12	5	5	3	0	1
小学6年生	2	10	6	5	3	0

・学年では、小学6年生の利用が多かった。

Q4 授業時間はどれくらいですか。(頻度の高い選択肢一つに○をつけてください)

	学校数	(%)
通常授業の1時間(45分程度)	22	85
特別授業で実施	2	8
その他	1	4
無回答	1	4
合計	26	100

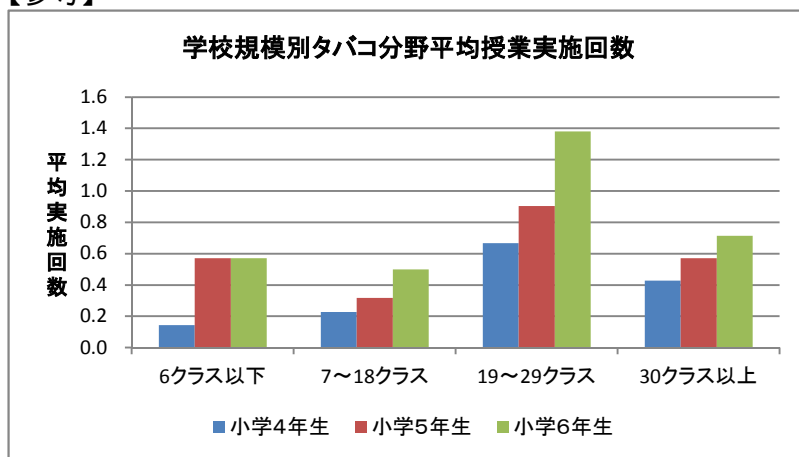
Q5 教材活用(タバコ)に関する研修会があれば参加したいですか。

	学校数	(%)
是非参加したい	5	19
参加したいとは思わない	5	19
わからない	15	58
無回答	1	4
合計	26	100

【ご意見】

- ・保健体育の規則正しい生活で有効に活用できている。
- ・沖縄県小児保健協会と連携し、外部講師によるタバコの害についての学習をおこなった。実施は3年生。
- ・タバコの害については、毎年、那覇警察署の薬物乱用防止教室にて4～6年生へ講話してもらっている。
- ・現4年生からは配布されていないので、新たに配布があると良い。
- ・小学生向けの出前講座等があれば活用したい
- ・研修について強い必要性は感じていない
- ・特別活動や保健指導等で活用していきたい
- ・時間があれば。
- ・離島という地理条件があり、学校薬剤師による出前講座や村主催による事業など可能な限り機会の提供を行っている。また、教材についても今後も提供いただけると幸いです。
- ・資料が使いやすい
- ・教材作成の場合、現場職員の意見も参考に学習教材を作成して頂きたい。学習指導要領に沿っているかの確認も欲しい(教頭)、昨年度は食育指導で栄養士の授業で活用した。「タバコ分野」での活用促進するのであれば、夏休み前等非行防止安全教室での活用ができるかなと思います(5年主任)
- ・養護教諭がまだ見ていない副読本です。タバコ研修会は、養護教諭というよりは各学級担任に参加してほしい研修です。
- ・予算の問題もあると思いますが、3カ年持ち続けるのは難しい。紛失する児童が毎年数名いて、6年生の時には本が揃わないです。
- ・タバコの害について警察署の方をお招きし、講話していただいています。

【参考】



【まとめ】

- ・回収率は85%であった。
- ・教材は55校(96%)で認知されていた。
- ・教材の活用分野は、「生活リズム」、「食生活」、「タバコ」の順に多かった。
- ・「タバコ」分野での活用は小学6年生で多く、学校規模別に見ても、学年が上がるにしたがって活用が増えていた。
- ・授業時間については通常事業の1時間での活用が22校(85%)であった。
- ・「タバコ」分野の教材活用に関する研修会への参加については、「わからない」と回答した学校が最も多く15校(58%)であった。なお、「是非参加したい」、「参加したいと思わない」は同数5校(19%)であった。
- ・自由記載欄(14校記載)からは、教材配布についての周知や、紛失への対応などの課題が見えてきた。